2022/11/2 Vol.2266

Tanabe East Rotary Club in 2022-23

2022-23年度RI会長
ジェニファー・ジョーンズ
第2640地区ｶﾞﾊﾞﾅｰ：森本　芳宣
田辺東ロータリークラブ
創立：昭和49年5月15日
会長：岡本　博
幹事：前田　吉彦

イマジン
ロータリー

例会場/事務所：田辺市下屋敷町81－10
きのくに信用金庫田辺支店3F
Tel 0739-24-6427 Fax 0739-34-5008
http://tanabe-east-rc.com/
E-mail info@tanabe-east-rc.com
例会：毎週水曜日　12:30～
ビジターフィー　¥2.000

○会長報告

会長　岡本　博

■本日のお客様は、
田辺市教育委員会 文化振興課
南方熊楠顕彰館 岡本裕文様です。
後ほど宜しくお願いします。

■本日のお弁当は「宝来寿司」さんです。
ご賞味ください。

■11月5日(土)和歌山城ホールに於いて「地区大会 第1日目」が開催されます。会長 岡本が参加致します。
また、同日ダイワロイネットホテル和歌山に於いて「ＲＩ会長代理歓迎晩餐会」が開催されます。
会長 岡本、幹事 前田君で参加致します。

翌6日(日)ホテルグランヴィア和歌山に於いて「地区大会 第2日目」が開催されます。
会長 岡本、幹事 前田君、片井君、武田君、4名で参加致します。
参加予定の皆様、ご苦労様ですがよろしくお願い致します。

○幹事報告

副会長　片井　貢

■回覧
◎週報1385～1391「田辺はまゆうＲＣ」
◎「英語版ロータリアン11月号」
◎ＲＩ日本事務局より
「財団室ＮＥＷＳ　11月号」
◎森本ガバナー事務所より
「地区大会記念ゴルフ大会ご参加の御礼およびご案内」
◎公益社団法人 白浜・田辺青年会議所
「ＪＣニュース　10月号」
◎田辺保健所長より
「令和4年度 麻薬・覚醒剤・大麻乱用防止運動による街頭啓発の実施について（依頼）」
◎田辺市暴力追放協議会より
「令和4年度 田辺市暴力追放決起集会及び街頭啓発パレードの実施について（お礼）」
◎第61回全日本花いっぱい田辺大会実行委員会事務局より
「花いっぱいサポーター（花育型）の募集について（ご案内）」
◎社会福祉法人和歌山県共同募金委員会より
「令和4年度赤い羽根共同募金について」
（ご協力依頼）
◎自衛隊和歌山地方協力本部　田辺地域事務所より
「わかやま自衛隊フェア2022 IN日高港」

■連絡
◎11月のロータリーレートは 1ドル＝148円 です。
◎「ロータリーの友11月号」を各自のトレーに入れています。よろしくお願いいたします。

四つのテスト：1. 真実かどうか2. みんなに公平か3. 好意と友情を深めるか4. みんなのためになるかどうか

○本日の唱歌

「君が代・紅葉」

唱歌　　谷本　司君

○出席報告

会員数 37名　義務免除 5名　本日の欠席者 8名

本日の出席率　　75.0　％

○ゲスト

田辺市教育委員会文化振興課

南方熊楠顕彰館

岡本　裕文　様

○にこにこ報告　（敬称略）

◇田辺市教育委員会文化振興課
南方熊楠顕彰館
岡本裕文様をお迎えして

愛須勝章、上原俊宏、片井貢、武田静也、竹中悟、玉置佳範、中嶋伸和、野村憲司、橋本隆、平林圭介、本田耕二、真下京、

◇岡本参事様ようこそ、本日の卓話宜しく。
泉房次朗

◇本人誕生日
８７才になりました。（冗談）佐田一三

メッセージ無いです。　上原俊宏

74才になりました。　小山實

◇お花いただきます。　丸山健

◇結婚記念日
46年になります。いつも感謝しています。
谷中順次郎

ストレスで太りました。　谷本司

メッセージ無いです。　竹村英一

◇奥様誕生日
嫁の誕生日は知らないようにしています。
嫁に「今日誕生日よ」と言われても、
「そうー良かったね」で済みます。余計な出費が押さえられます。
岩崎泰人

ボケとんのか！　58才でボケは早い。（冗談）
渡口眞二

☆本日もニコニコありがとうございました。

○今日のお弁当

本日のお弁当は
「宝来寿司」さんの
お弁当でした。
美味しく頂きました。

○次回プログラム

◎11月9日 西牟婁振興局 健康福祉部
保健課長　　斉藤 典代様

◎11月16日 教育委員会 生涯学習課
地域教育指導員　谷本 敬介様

◎11月23日　休会

◎11月30日 職場訪問 移動例会（株）カナセ

○本日のプログラム

田辺市教育委員会
文化振興課
南方熊楠顕彰館
岡本　裕文様

自己紹介

本日は、田辺市まちづくり学びあい講座の「エコロジーの先駆者　南方熊楠」にお申込みいただきありがとうございます。

南方熊楠顕彰館の岡本と申します。本日は、南方熊楠や南方熊楠顕彰館の事業についてお話をさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

南方熊楠は、博物学、宗教学、民俗学の分野における近代日本の先駆者的存在であり、同時に植物学、特に「隠花植物」と呼ばれていた菌類・変形菌類・地衣類・蘚苔類（せんたいるい）・藻類の日本における初期の代表的な研究者です。

名前について

南方熊楠は、「熊楠」という名前の由来についてしばしば語っています。

「熊」は「熊野」から、「楠」は海南の藤白神社の楠神から授かったと言っており、兄弟の名前にも、熊、楠、藤の文字が使われており、自分には熊と楠の二文字を授かったと言っています。

南方熊楠は、１８６７年5月１８日（慶応３年４月１５日）に南方弥兵衛の次男として、和歌山城下（和歌山市）の橋丁に生まれました。雄小学校、和歌山中学校（現：桐蔭高校）に通い、当時のあだ名は「てんぎゃん」で、熊楠の生い立ちで伝説的に語られる、学校の授業に出ず植物採集のために山にばかり入っていたため「天狗さん」という意味で呼ばれたと言われますが、中学時代の日記を見るかぎり、欠席が多いというわけではないようです。熊楠自身は「日本人に例少なきほど鼻高かりしゆえ」という理由で、このニックネームを好んだらしく、このように天狗の絵をよく書いています。家は金物商から酒造業を営み、現在も和歌山市で株式会社世界一統という名で酒造業を行っています。

中学卒業後、東京神田の共立学校を経て、１８８４年（明治１７年）に東京大学予備門（現：東京大学）に入学します。同級生には夏目漱石や正岡子規がいました。しかし、１８８６年（明治１９年）に退学し、１２月にアメリカに向かいます。

これは、渡米にあたって友人に贈った写真で、写真の裏には

「僕も是から勉強をつんで　洋行すましたその後は
ふるアメリカを跡に見て　晴れる日の本たち帰り
一大事業をなした後　天下の男といわれたい」

と渡米にあたっての思いを書いて送っています。

翌年の１８８７年（明治２０年）１月にサンフランシスコに上陸し、パシフィック・ビジネス・カレッジ、次いでイースト・ランシングのミシガン州立農学校で学びましたが退学し、独学で植物学、民俗学を中心に様々な学問を学び、アナーバー、ジャクソンビル、キューバでの植物採集を経て、１８９２年（明治２５年）ニューヨークから渡英します。

１８９２年（明治２５年）から大英博物館に通い、１８９３年（明治２６年）には古美術部および東洋部の部長フランクスとその助手のリードと知り合い、東洋関係の書物等の整理を手伝います。
左の写真が当時の大英博物館の円形書籍閲覧室です。
右の写真は、大英博物館の蔵書を筆写した「ロンドン抜書」で帰国までに５２冊に及びました。

１８９３年（明治２６年：２６歳）に科学雑誌『ネイチャー』に「東洋の星座」を発表、以後『ネイチャー』に総数５１本の論文が掲載されることになります。

１８９７年（明治３０年：３０歳）には、大英博物館東洋図書部長の紹介で孫文と出会い、親交を結んでいます。

この写真は、帰国後の、１９０１年（明治３４年）に、孫文が和歌山を来訪した際に、撮った記念写真です。

この絵は、ロンドン戯画と呼ばれている、帰国後に気に入った女性に宛てて送ったハガキに描いた絵で、ロンドンの立ち飲みのパブで、熊楠と友人が集まって、飲んでいる様子を描いたものです。熊楠は、子どもの頃から、図鑑を筆写しており、絵がとても上手です。カウンターの上に猫がいたり、右下の部分には犬が描かれています。他にも熊楠はよく猫の絵を描いています。

１９００年（明治３３年）に８年間暮らしたロンドンから、３３歳で帰国し、１９０２年（明治35年）から、南方酒造の支店のあった那智に滞在し、３年間那智山中で植物調査と論文執筆に励みました。

１９０４年（明治３７年）熊野古道中辺路をとおり田辺に到着、１９０６年（明治３９年）に闘鶏神社の宮司の四女松枝と結婚し、１９１６年（大正５年）４９歳に、現在の南方邸に住み、１９４１年（昭和１６年：７４歳）に、亡くなるまでの３７年間を、田辺で過ごし、田辺から日本、世界に向けて情報を発信しました。

続きまして、南方熊楠の業績についてお話をさせていただきます。
南方熊楠翁の大きな業績としては、次の３つがあげられます。
まず一つ目は民俗学の分野での功績、二つ目は植物学の分野での功績、そして、神社合祀反対運動の３つがあげられます。

まず、一つ目の民俗学についてです。
１９１１年（明治４４年）から、柳田國男との書簡のやり取りが始まり、熊楠から「欧米各国、みな、フォークロア・ソサエティーあり、わが国にも、設立ありたきものなり」と呼びかけ、柳田がそれに応えて、草創期の日本民俗学は、大きな一歩を踏み出しました。

そして、柳田らが結成した郷土会（郷土研究会）の機関誌『郷土研究』に論文を寄稿するなど、草創期の日本民俗学に大きな影響を及ぼしました。

植物学の分野では、菌類、変形菌、藻類などの隠花植物と呼ばれた、花の咲かない植物を研究しました。

菌類（キノコ）を採集し、写生し、標本を貼り付け、説明文を書いた菌類図譜を描き続けました。熊楠翁の菌類図譜３５００点余りは、長女の文枝さんより国立科学博物館に寄贈され植物研究部に保管されています。

アメリカ時代から変形菌を収集し、紙箱に入れて標本を作りました。変形菌は、変形体と呼ばれアメーバ状となり移動しつつ、バクテリア等を食べて、増殖する動物的な性質を持つ時期と、キノコのように子実体を形成し、胞子により繁殖する植物的な性質を持つ時期を、あわせ持つ不思議な生き物です。南方熊楠邸の庭の柿の木でミナカテルラ・ロンギフィラという新種の変形菌を発見しました。

また、熊楠翁は１９２９年（昭和４年）６月１日に神島で昭和天皇に拝謁した後、お召艦長門の艦上でご進講を行い、変形菌の標本１１０種などを献上しました。
この写真は、ご進講を記念して、妻の松枝と撮影した記念写真です。

このご進講の1年後に、神島に熊楠翁が詠んだ歌「一枝もこころして吹け沖つ風わか天皇のめてましし森そ」が刻まれた行幸記念歌碑が建立されました。
また、１９６２年（昭和３７年）に白浜を訪れた昭和天皇は田辺湾に浮かぶ神島を見て、熊楠翁との一期一会を懐かしみ、「雨にけふる神島を見て紀伊の国の生みし南方熊楠を思ふ」と熊楠翁の名前の入った歌を詠みました。この歌が刻まれた御製碑は白浜の南方熊楠記念館の前の庭に立っています。

南方熊楠邸

（登録有形文化財・平成27年3月26日登録）

閑静な旧武家屋敷。田辺市中屋敷町の一角に南方熊楠の旧邸があります。熊楠は1916（大正５）年から1941（昭和16）年、享年74歳で亡くなるまでの25年間をここで過ごしました。
熊楠にとって邸は、単なる住居ではなく南方植物研究所という大切な研究の拠点でした。南方の名が冠された新種の粘菌「ミナカテラ・ロンギフィラ」の発見もこの庭の柿の木でした。柿の木や熊楠がこよなく愛した楠の木は今も、熊楠の活躍した昔と変わりのない姿で残され見ることができます。
そのほか、好んで食した安藤みかんや熊楠が臨終の床で「天井に紫の花が咲いている」とつぶやいたセンダン（オウチ）の木などもその季節には庭の一角から芳香を放っています。
また、研究用具などの遺品も数多く、復元された建物に展示され当時のまま眼に触れることができます。
いまにも熊楠の息づかいが聴こえてきそうな熊楠邸を体感してみませんか。

南方熊楠顕彰館

南方熊楠邸の隣に南方熊楠顕彰館はあります。
主に熊楠邸の書庫にあった膨大な書物や日記、資料、論文などを移し収蔵しています。
これら熊楠が遺した約25,000点に及ぶ資料は、いつでも閲覧できるようデータベース化を進めています。収蔵資料やその情報については２階のＰＣコーナーで検索、閲覧できます。また、研究目的等に限って事前の申し込みにより原資料の閲覧も可能です。
このほか、顕彰館では熊楠への理解を深めることができるよう、月例展や特別企画展を開催しています。さらには、各種講演会や南方熊楠顕彰会主催による熊楠ゆかりの地を散策する"南方を訪ねて"などのイベントも開催しています。
知られていないその人となりや先駆的な研究、さらにはエコロジストとしての南方熊楠の世界に触れてみてください。

神島は、昭和天皇へのご進講を機に、翌１９３０年（昭和５年）に県の天然記念物に指定され、１９３５年（昭和１０年）に国の天然記念物に指定されました。

続いて３つ目の神社合祀反対運動についてです。明治末期、政府が集落ごとにある神社を合祀して、一町村一神社とする神社合祀政策を推し進め、合祀された神社は神社林を伐採され、木材として売却されました。
熊楠翁は神社合祀に反対し、自然保護運動を行いました。

熊楠翁は新聞や雑誌に反対意見を投稿するとともに、中央の官僚、大学教授などに書簡で貴重な自然や神社林、史跡の保護を訴えました。この写真は、稲成の高山寺の下にあった糸田の猿神社でここでも新種の変形菌を見つけましたが、ここの巨大なタブノキも切られました。

この写真は、林中裸像と呼ばれるもので、１９１０年（明治４３年）１月に撮影されたものです。このような写真を使い、神社合祀反対意見を新聞に投稿しました。寒い冬に上半身裸で、撮影しており、これは見た人の印象に残るようにとの意図で、行なったと言われています。

和歌山県では王子社をはじめ数多くの神社が合祀され、神社林は伐採されましたが、和歌山県知事宛の書簡や新聞への投稿に、熊楠翁は「エコロギー」という言葉を使い、「植物相互の関係」にも着目し、神社合祀に反対しました。

それはまさに今日の私たちが「エコロジー」と聞いて思い浮かべる「自然保護」、「環境保全」運動そのものです。こういったことから、熊楠翁は「エコロジーの先駆者」と言われています。

１９１８年（大正７年）に貴族院で神社合祀廃止が決議されました。
熊楠翁や翁に賛同した住民たちの反対運動により守られた神社、神社林は、今なお中辺路を中心とした熊野古道沿いに残っています。

この写真は熊野古道、高原熊野王子と近露の継桜王子です。これらの社叢が熊楠翁や地域住民によって守られたことにより、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の登録につながったと言っても過言ではないでしょう。

また、２０１５年の９月には吉野熊野国立公園の拡張に際し、熊楠翁が保全に尽力した神島やひき岩群が国立公園となり、１０月には「南方曼陀羅の風景地」として熊楠翁にゆかりの深い１３か所が国の名勝に指定されました。

「南方曼陀羅の風景地」は言うに及ばず、国立公園となった地域にも熊楠翁ゆかりの地が数多く含まれています。さらに、翁の妻の実家であり、フィールドワークの場でもあった闘鶏神社、翁が歩いた長尾坂、潮見峠越、保全を訴えた八上神社などが世界文化遺産に追加登録されました。このように今も熊楠翁が守った自然や神社林がその価値を認められ、文化財や世界遺産になっているのです。

次に、南方熊楠邸と南方熊楠顕彰館、そして南方熊楠顕彰会についてお話させていただきます。
まず、南方熊楠翁は、人生の半分の３７年を田辺で過ごしていますが、１９１６年（大正５年）４９歳から、１９４１年（昭和１６年）７４歳で亡くなるまでの約２５年間をこちらの南方熊楠邸で過ごしています。
こちらは家族と過ごした母屋です。当時の写真と現在の写真を並べております。往時の雰囲気を復原して観覧していただいています。

こちらは研究の場としていた書斎です。当時は、足の踏み場もないほど本が積み重ねられていたようです。

こちらは、土蔵です。土蔵は２階建てで、熊楠翁の没後６０年以上も書籍や資料を保管していました。１階は書庫で、２階には動植物の標本を置いていました。

庭には、自身の名前にもあり気に入っていた大きなクスノキや新種の粘菌を発見した柿の木が今も残っています。

南方熊楠邸は、熊楠翁にとって、居住・研究の場として大切な空間であるだけではなく、母屋をはじめとする建物が、田辺地方における早期の洋風意匠が加味された住宅の例としても価値が認められることから、２０１５年（平成２７年）３月に、国の登録有形文化財となりました。

こちらは、南方熊楠顕彰館です。２００６年（平成１８年）に開館しました。こちらはコンペにより設計を選び、紀州材をたくさん使った建物となっています。丸い柱には杉、格子にはヒノキを使っています。

南方熊楠顕彰館は、南方熊楠翁の遺産を恒久的に保存し、その思想および学問活動に関する調査・研究を充実させるとともに、その成果を発信するための拠点として運営しています。

また、南方熊楠の顕彰を通し、南方熊楠のまち田辺、学術都市田辺をアピールし、まちづくりに寄与していくこを目的としています。

展示スペースには常設展示があり、熊楠翁の生涯や研究成果を知っていただく展示と田辺高校の生徒による熊野の模型で熊楠翁のゆかりの地を見ていただけます。

このスペースでは月例展など小規模な展示も行っています。

こちらは学習室です。団体見学への説明や、講演会、特別企画展等をこちらで行なっています。

こちらの写真は特別企画展の展示の写真です。壁面の説明パネルと展示ケースの中に資料を展示しています。

こちらの写真は、学習室での講演会の様子です。

こちらは収蔵庫です。洋書や中国書、和古書などの蔵書、自筆の書簡や原稿などの資料や雑誌や新聞切抜、高等植物の標本等、全部で約２５，０００点を収蔵しています。

普段は入室いただけませんが、記念日イベント等で入室体験を行っており、次回は１１月２６日（土）の生涯学習フェスティバルのイベントとして特別入室体験を行います。

こちらは２階の交流・閲覧室です。顕微鏡やモニターで変形菌の標本の観察ができ、パソコンで収蔵資料の検索や、日記や菌類図譜などの一部の資料の画像を見ることができます。また、熊楠関連の図書を配架しておりますのでご自由に閲覧いただけます。

こちらは、１階の休憩コーナーにある大楠の枝です。三重県御浜町にある引作神社のご神木で、三重県の天然記念物でもある大楠の枝が、幹の空洞化によって折れてしまいました。この楠は、神社合祀令によって伐採されようとしていたのを、熊楠が当時国の官僚であった柳田國男と朝日新聞の杉村楚人冠に保護を訴え、伐採を逃れたというゆかりの楠です。この机は、枝の一部で、重さが１．２トンあります。熊楠翁が守り、今も生き続ける大楠の姿をうかがえると思います。

続いて、南方熊楠顕彰会についてお話をさせていただきます。

田辺市が進める南方熊楠顕彰事業の運営母体として、１９８７年（昭和６２年）６月発足しました。（当時は南方熊楠邸保存顕彰会）

１９８９年（平成元年）から全国に向けて募金活動を展開し、多額の寄附を集め田辺市に寄贈し、田辺市はその浄財とふるさと創生資金を基金として、南方熊楠邸の保存管理と南方熊楠の業績を顕彰することを目的に、「南方熊楠賞」「南方を訪ねて」をはじめ、熊楠の研究業績や実像を紹介する取り組み、南方邸に遺された蔵書・研究資料の調査研究や整理保存を行うなどの顕彰事業を官民協働で実施しております。

南方熊楠顕彰館の開館に伴い、「熊楠翁とその学問的業績に関心を寄せる者及び調査研究する者が交流し、相互に理解を深めるとともに、熊楠翁を広く顕彰すること」と規約を改め、名称を「南方熊楠顕彰会」に変更し、事業を展開しています。

邸では熊楠の息吹を、
顕彰館では知の集積を…。

事業の内容としましては、まず、所蔵資料等を保存管理し、整備、公開を行っています。
調査研究活動としては、南方熊楠研究会の運営等を行っております。８月に例会を行い、研究者からの発表や公開シンポジウムなどを行いました。

資料の調査、解読については、田辺、関西、東京に熊楠翁の日記を読む会があり、熊楠日記の翻刻作業を行っております。その他の熊楠資料についても研究者グループによる研究が行われており、生物系資料においても整理作業を進めております。

展示活動としては、通常展示に加えて、今年度は月例展３回、企画展１回、特別企画展３回を実施します。現在も、月例展、熊楠とゆかりの人びとシリーズ「フランクス」を１１月１３日まで実施しておりますので、ぜひご来館ください。

そして、顕彰会会員へのニュースレターや熊楠ワークスの発行や、ホームページやFacebook、インスタグラムでの情報発信を行っております。

南方熊楠顕彰会では、様々な情報発信をすることで、熊楠翁を通じて田辺市の魅力の発信につながる事業を実施しております。

以上で、南方熊楠についてのまちづくり学びあい講座を終わりたいと思います。
すでにお越しいただいたことがある方もおられるかと思いますが、展示や講演会などの際にお越しいただければと思います。また、市外からのお客様などがございましたら、顕彰館をご紹介いただければと存じます。
ありがとうございました。

教育啓発活動としては、講演会やシンポジウム、２年ごとに南方熊楠記念館と共催で行っている南方熊楠ゼミナール、南方を訪ねてを実施しています。
今年度は、熊楠翁没後８０周年事業として、東京での連続講座を１１月２２日から３週間連続で行ます。

南方熊楠賞については、熊楠翁の研究対象であった、民俗学的分野、博物学的分野の研究に顕著な業績があった研究者にお送りしています。人文部門と自然科学部門から交互に選考しております。今年度は5月１４日に授賞式と記念講演を実施しました。受賞者は東京家政学院大学名誉教授の江原絢子先生でした。

南方熊楠と生物の世界

Minakata Kumagusu and the world of living things

南方熊楠（1867-1941）は、人文・社会科学から自然科学までの幅広い分野を統合的にとらえることで、新たな学問のあり方を模索した学者である。その試みは、生態学と民俗学に基づく先駆的な自然保護運動である神社合祀反対運動に結びつくなど、現在でも多くの示唆を与えてくれる。本講演シリーズでは、その中核となる熊楠の生物に対する視線を、思想史などの人文・社会科学と生物学などの自然科学の双方の視点から多角的に分析する。

day.1 虫のマンダラ－南方熊楠とユクスキュル

鶴見和子によって「南方マンダラ」と名付けられた熊楠の世界観（1903年7月18日付土宜法龍宛書簡に見られる図）は、これまでさまざまな解釈がなされてきた。熊楠のテクストを注意深く読むと、これが人間だけでなく、あらゆる生命の視点から成り立つものであることが明らかである。ここでは、ドイツの生物学者ユクスキュルの呈示した「環世界」という概念を用いて、熊楠がこの図によって表そうとした思想の内容に迫る。

松居 竜五
南方熊楠顕彰館長 / 龍谷大学教授

day.2 熊楠と生物の絶滅－オオカミを中心に

エゾオオカミが1896年、ニホンオオカミが1905年に絶滅したことで、日本からオオカミはいなくなった。熊楠が長く過ごしたイギリスでも、18世紀には全土から姿を消している。動物の絶滅という問題は、19世紀末から強く意識されるようになった。オオカミの絶滅によって失われたものは何か。熊楠は生物の絶滅／保護について、どのように考えていたかに迫る。

志村 真幸
慶應義塾大学非常勤講師

day.3 南方二書と紀伊半島の森林の現在

「南方二書」は、紀南の神社林と自然林の保護を訴えて南方熊楠が1911年に記した意見書である。高級官僚だった柳田國男により印刷配布された。この意見書執筆を軸に、南方の「神社合祀反対運動」とその時代背景を考えたい。

田村 義也
成城大学非常勤講師

2004年に熊野古道が「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録されたのは、熊楠が神社合祀反対運動で社叢や神木を守ったからである。熊楠が体験した紀伊半島の森林の変化と現在のようす。森林の適切な活用をしつつ将来の世代へ引き継いでいく方法の模索を紹介する。

土永 知子
南方熊楠顕彰館学術研究員

注意事項
・ご来場の際は、マスクの着用や検温、手指のアルコール消毒等、会場内の感染予防対策にご協力ください。
・発熱等の症状のある方は、参加をご遠慮いただきますようお願いいたします。
・新型コロナウイルス感染症の感染状況により内容の変更や、中止とする場合がございます。

○こちらは那智の陰陽の滝の写真で、右が熊楠がいた頃と同じ流れで、左側が２０１１年（平成２３年）の紀伊半島大水害の後に流れが変わった写真です。

この滝の左側は保護された原生林で、右側は植林で、植林された方が崩れています。

熊楠翁が東京大学教授（松村任三）宛に神社合祀反対の意見を書いた２通の手紙を柳田國男が冊子にして有識者に配布した「南方二書」の中で、熊楠翁は乱伐によって大水害が起こることを書いていました。

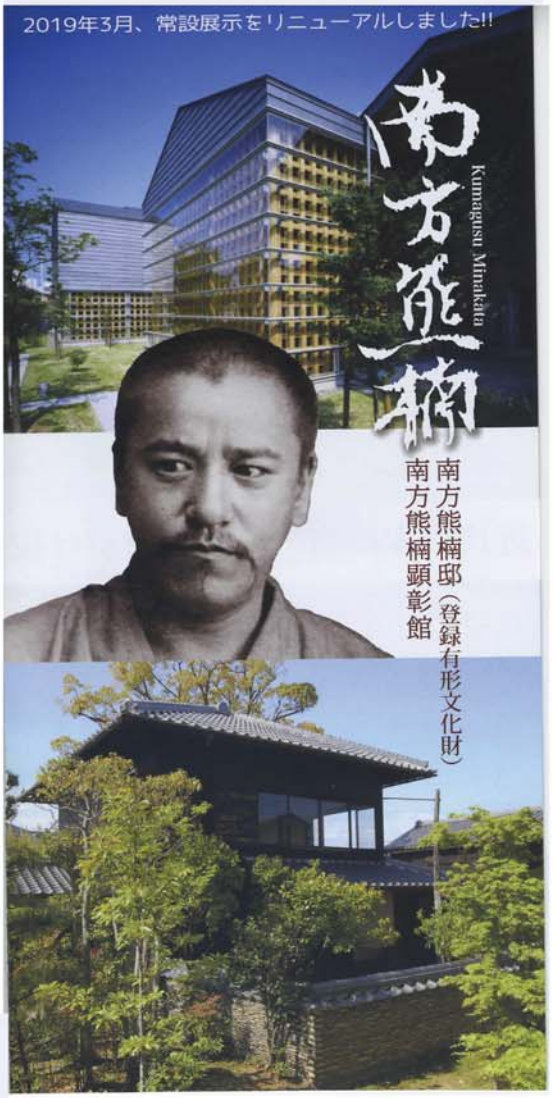
四つのテスト：1. 真実かどうか2. みんなに公平か3. 好意と友情を深めるか4. みんなのためになるかどうか

南方熊楠略年譜

(1867～1941)

1867年　5月18日　和歌山城下に生まれる
1883年　和歌山中学校(現和歌山県立桐蔭高校)を卒業
1884年　大学予備門(現東京大学)に入学
1886年　大学予備門を中退。12月、渡米
1887年　1月、サンフランシスコに上陸、パシフィック・ビジネス・カレッジに入学。8月、ミシガン州立農学校に移る
1888年　11月、同校を退学し、アナーバーに移る
1891年　4月、ジャクソンヴィルに移る。8月、フロリダ半島を南下、キーウェストを経てキューバに渡る
1892年　1月、ジャクソンビルに戻る。9月、ニューヨークから渡英
1893年　天文学に関する論文を『ネイチャー』に寄せる
　　大英博物館に通い始める
1897年　孫文と交流を深める
1899年　大英博物館を退館する。この頃『N&Q』に寄稿を始める
1900年　イギリスから帰国し、和歌山市内に居住
1901年　勝浦に移り、翌年那智に移る
1904年　中屋敷町多屋家の持家を借りる
1906年　闘雞神社宮司田村宗造四女松枝と結婚
1909年　神社合祀反対運動を始める
1910年　中屋敷町藤木八平の別宅へ転居
1911年　長女文枝生まれる
1916年　中屋敷町36番地に敷地約400坪の家を求め、終生住む
　　自宅の柿の木で変形菌新属を発見(のちミナカテラと命名される)
1926年　『南方閑話』、『南方随筆』、『続南方随筆』を刊行
1929年　6月1日、紀南行幸の昭和天皇に田辺湾神島で御進講
1941年　12月29日、74歳で永眠。真言宗高山寺に葬られる
2017年　5月18日、生誕150周年の年、田辺市名誉市民となる

南方熊楠顕彰館
MINAKATA KUMAGUSU ARCHIVES



〒646-0035 和歌山県田辺市中屋敷町36番地
TEL0739-26-9909 FAX0739-26-9913
http://www.minakata.org

南方熊楠邸案内図

南方熊楠邸および南方熊楠顕彰館ご利用案内

開館時間／午前10時～午後5時（入館時間は午後4時半まで）
休 館 日／月曜日、第2,4火曜日、祝祭日の翌日、12月28日～1月4日
※臨時休館、開館有り。ホームページでご確認ください。

■南方熊楠顕彰館の入館は無料です。
■南方熊楠邸の観覧料は、下記の通りです（20名以上団体割引）。
　◎一　　般　　350円
　◎高校生以下　　無　料

※本館駐車場は身障者専用2台、本館前駐車場12台
　その他公共駐車場は田辺市役所周辺(約400台・徒歩約5分)

四つのテスト：1. 真実かどうか2. みんなに公平か3. 好意と友情を深めるか4. みんなのためになるかどうか